

私は[ ]。現在は[ ]。在職中[ ]として、周辺整備計画策定、住民説明会の開催、水没地住民の生活再建対策等、各種事務に携わった。

天塩川流域市町村から資料収集、時の原田町長にお供し、国や道に陳情活動に奔走した。平成4年12月21日、大蔵原案内示で実施計画調査費の内示を、町長と開発庁水政課長から直接受けた。その日、開発政務次官室でお礼のセレモニーが催され、その司会役を努めた。

それから15年を経過、計画ではH5年着工、H15年本体着工、H20年完成だった。国家財政の悪化と諸般の事情で延びたこと、あまりにもスローテンポにがっかり。

最近の異常気象、この先、何が起ころうか心配だ。環境も生態系の保護も大切だが、それ以上に人々は水の恩恵を受けおり、生活に必要不可欠。「どっちが大事か」考えてみることだ。

1月の説明会で、きめ細かな配慮がされていることがよくわかった。ダム建設に異議を唱える人々への真摯な対応で理解が深まったと思う。

異常気象から人々の生命財産を守るため、一日も早い本体着工が当然である。

計画コストをこれ以上かけることは問題。国家財政の負担増に配慮も必要である。

天塩川水系河川整備計画を「机上のプラン」とせず着実に実行し、自信を持って本体着工に踏み出すことを切望する。